

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

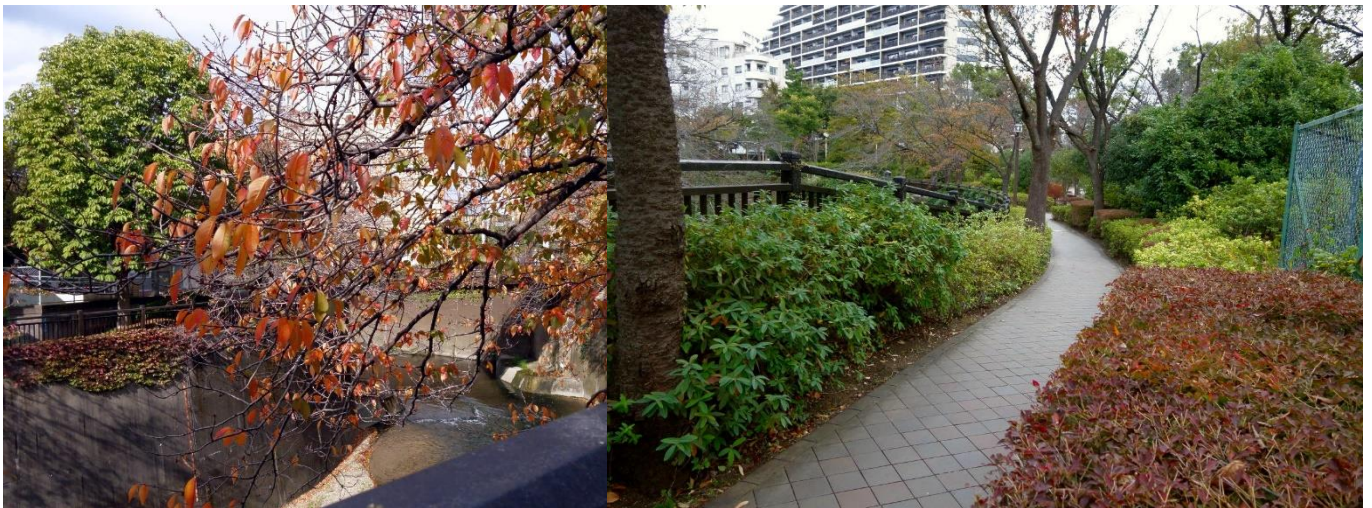
2020.10.30

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

秋らしさを探して一人歩く

石神井川緑道の観察・記録活動は月に2回しか行わないのに、10/8も10/23も雨だったので、10/30は「臨時例会」として一人で歩いてきました。朝のうちはどんよりと曇っていたので散歩している人も少なく、静かで落ち着いた観察ができました。



ソメイヨシノの紅葉は他の落葉樹よりもずっと早く8月の終わりからぼちぼちみられるものです。10/30には半分ぐらいいはすでに落葉していて、今年はあまりきれいではありません。

意外にきれいだったのは人の背丈以上に伸びたヨウシュヤマゴボウの紅葉(左下)。生物多様性保護にとってはあまり歓迎されない種ですが、草の中ではきれいな紅葉を見せる部類に入でしょう。川の護岸にへばりつくように伸びているツタの仲間。これまでキズタ(ウコギ科)だと思



い込んでいたのですが、キズタは常緑つる性植物。足元のこの葉は紅葉しているところを見ると、ナツツタ(ブドウ科)であると気が付きました(右下)。今日の観察は勉強になりました。

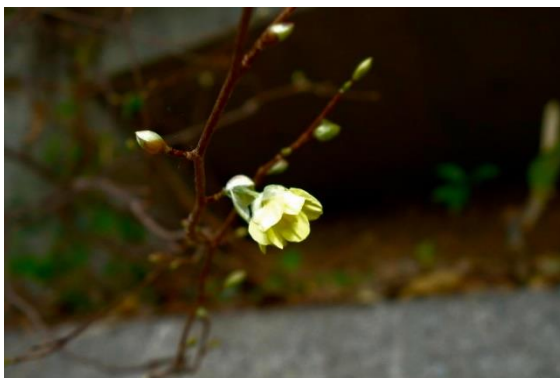


季節感がなくなった植物が増える



秋らしいといえるかどうかは分からないのですが、**センダングサ**の実。子どもの頃は毛糸のセーターにこの草の実をぶつけ合って遊んだものです。写真左は実が弾けた姿ですが、ブローチの工艺品のようでよくできています。

蓬餅やお灸のもぐさに使われる**ヨモギ**は、右中の写真のような葉が一般にイメージされています。ところが、秋の開花の頃になると姿を変えます。右の写真のように、葉が細くなってまったく違った植物のようになります。10/30の観察ではこの秋姿の隣で早くも春の葉も展葉していて、春秋同居のヨモギでした。



左の**ノゲシ**は春から夏の暖かい季節の花なのに、最近では秋が深まってもまだ咲いています。

右の**ヒュウガミズキ**は春真ただ中に咲く花。石神井川緑道では例年3月中旬から4月中旬にかけて開花が観察されています。秋の今頃は蕾が観察されていたのですが、開花観察は初めて。

徹底的な草刈り、でも・・・、残されていたウマノアシガタ



石神井川緑道でがっかりさせられるのが、区による徹底的な草刈り。一面みどりの野原を一瞬にして土がむき出しの露地にしてしまうこの感性はまったく理解できません。10/25も直前に草刈りが行われて寒々とした光景。

でも、不思議なことに**ウマノアシガタ**

の群落は残されていました。常々、区に「ここは草刈りダメ！」と注意喚起（クレームとも言う）しているのが通じたのか、傍にオリズルランの大群落があって草刈りが面倒だったのか、とにかく残った！

